



氏名	井上順一郎
年齢	48
所属	神戸大学医学部附属病院

立候補の趣旨

私は2005年に理学療法士免許を取得後一貫してがん患者に対する理学療法の臨床、研究、教育に従事してまいりました。臨床および研究においては、造血幹細胞移植や食道がん等のがん患者に対する理学療法の実践およびエビデンスの確立に努め、『がんのリハビリテーションガイドライン』や『がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版』の策定にも尽力してまいりました。

また、教育においては、養成校におけるがんの理学療法に関する講義や臨床実習指導者として後進の育成に努め、『神戸大学がんプロフェッショナル養成プラン「がんリハビリテーション・インテンシブコース」』や『がんのリハビリテーション研修』における講師・ファシリテーターを通して、わが国におけるがん患者に対するリハビリテーションの普及啓発、教育、研究の推進などの活動を行ってまいりました。

その活動の中で、わが国におけるがんの理学療法の教育やわが国発のエビデンスの確立が未だ不十分であることを痛切に感じております。そこで、本研究会を通してがんの理学療法の実践や啓発、教育システムの構築、研究の促進を進めてまいりたいと思い、今回理事に立候補いたしました。これらの活動を通して、本研究会の発展とともに、国民の健康とQOLの向上に貢献していきたいと考えております。

役員歴

本研究会の前身である『がん理学療法部門』より運営幹事として部門事業の企画・運営に携わってきました。

また、『日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会』に移行後も副理事長および理学療法標準化検討委員会・ガイドライン部会担当として、研究会事業の企画・運営に携わっております。



氏名 明崎 禎輝

年齢 42

所属 高知リハビリテーション専門職大学
理学療法学専攻

立候補の趣旨

私は、これまで臨床現場や大学教員として業務に携わってきました。がん医療は、手術や薬物療法などの治療に加えて、リハビリテーションの実施も重要となります。本邦において、がんリハビリテーションの重要性に対する認知度は十分ではなく、参考となる文献（日本語）や著書も少ないのが現状であろうかと思われま。そのため、がんリハビリテーションの必要性、知識・技術および効果を普及させ、がんリハビリテーションの発展とがんリハビリテーションに関わる理学療法士の認知度向上に貢献したいと考えております。ご支援の程、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

役員歴

- ・AMED「外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究」コアメンバー
- ・「理学療法学」, 「Physical Therapy Research」査読委員

活動歴：講演、シンポジスト

- ・平成27年～令和1年：第1～5回愛媛県がんのリハビリテーション研修における講師
- ・平成28年：中国・四国グループ 理学療法士・作業療法士スキルアップ研修会において、「骨転移患者に対するリハビリテーションの重要性」のテーマで講義
- ・平成28年：第70回国立病院総合医学会 「リハビリテーションを行う骨転移患者に対する多職種連携の取り組み」の演題でシンポジストを実施
- ・平成29年：第6回日本がんリハビリテーション研究会「がんセンターにおける外来がんリハビリテーションの取り組み」の演題でシンポジストを実施
- ・平成30年：国立病院機構中国・四国ブロック地区単位人材育成事業「骨転移患者に対するリハビリテーション：当院での研究内容」のテーマで講義
- ・平成30年：愛媛県理学療法士会 第3回一般研修会「予防、周術期、進行期における乳がん患者のリハビリテーション」の演題で講演
- ・令和3年：第58回日本リハビリテーション医学会学術集会「高齢乳がん患者に対するリハビリテーション治療：若年層との比較」の演題でシンポジストを実施



氏名	吉田裕一郎
年齢	45
所属	宮崎善仁会病院

立候補の趣旨

がん理学療法部門設立時から研究会発足まで、運営幹事、理事として携わってまいりました。

そのなかで、広報担当としてホームページ管理、メールマガジン配信などによる研究会活動の発信、またがん理学療法カンファレンス、緩和理学療法カンファレンスなどの学術事業の企画を行ってまいりました。

がん・リンパ浮腫領域は、他の理学療法領域と比べてエビデンスや経験知の面でも未熟な領域です。しかしながら、自身のこれまでの活動のなかで少しずつその成長と広がりも感じてきています。

私たち理学療法士にとって、がん・リンパ浮腫領域への対応は今後さらに重要なものになっていきます。理学療法士が自信を持って関わっていけるためには、さらなる学術的発展を進めることも必要です。そして、理学療法士が患者とその家族に寄り添い、共に病に立ち向かうことができる体制や環境づくりが求められます。

研究会活動を通じて、一人でも多くの会員の方の臨床に繋がっていけるよう尽力いたす所存です。

どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

がん理学療法部門運営幹事（2016年～）

日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会理事（2021年～）



氏名	古後晴基
年齢	56
所属	西九州大学 リハビリテーション学部

立候補の趣旨

日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会の理事に立候補致しました古後晴基と申します。1987年に理学療法士になって臨床17年、教育・研究分野18年になります。現在、私は西九州大学に所属し、浮腫をテーマに様々な研究に取り組んでいます。浮腫は臨床でよく観られるため、研究成果を多くの患者様へ還元できると考えています。更には、名称独占のみの国家資格である理学療法士を発展させるとも考えています。このたび、日本理学療法学会連合の法人学会・研究会が発足するにあたって、日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会の発展に微力ではありますが貢献したいと思い、理事に立候補しようと決意致しました。ご支援賜ります様、お願い申し上げます。

役員歴



氏名 國澤洋介

年齢 48

所属 埼玉医科大学 保健医療学部 理学療法学科

立候補の趣旨

この度、日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会理事選挙に立候補させていただきました。私は、本会の前身であるがん理学療法部門設立時より部員として、部門の活動に参加してまいりました。現在は、評価の標準化WG（骨転移部会）、研究推進委員会（学会連合）などを担当しております。

がん患者リハビリテーション料の算定可能となった2010年以降、がん理学療法の必要性は広く認知されることとなり、多くの理学療法士が本会の活動にも興味を持っていただくことができました。一方、がん理学療法における評価や介入に関する教育体制、さらには専門・認定制度はまだ確立されておられません。

これからも、がん理学療法に関する卒前・卒後教育の充実、新生涯学習制度における専門・認定理学療法士（がん・リンパ浮腫）の設立、関連職種や関連団体との連携強化に向けて取り組んでまいります。

役員歴

日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会 理事・評議員 2021年～現在
日本理学療法学会連合 研究推進委員会 委員 2021年～現在
日本緩和医療学会 学術大会支援メンバーWG WG員 2022年～現在
埼玉県理学療法士会 がんリハビリテーション推進委員会 委員長 2013年～現在
日本理学療法士学会 がん理学療法部門 部員 2017年～2021年
日本理学療法士学会 第1回がん理学療法部門カンファレンス 準備委員長 2017年
日本理学療法士学会 第2回がん理学療法部門研究会 副大会長 2019年



氏名 松村和幸

年齢 38

所属 手稲溪仁会病院

立候補の趣旨

私は、がん理学療法部門設立時より運営幹事として、そして、部門が研究会に移行してからは副理事長という立場で運営を支えてきました。研究会に移行しましたが、がん理学療法が学術として発展していくため、これまでの事業の継続や新たな事業を行うためには、これまで携わってきた立場から規定やマニュアルの整理など多くの課題があると考えています。

がん患者の生存率が上がり、がん理学療法の役割やニーズは今後も高まると考えられます。がん理学療法が学術として発展していくとともに研究会から学会に移行して独立するため、また、当会が適正かつ円滑に運営できるよう、尽力して参ります。ご支援のほど、何卒宜しく御願ひ致します。

役員歴

2015年～2021年	日本理学療法士学会	がん理学療法部門	運営幹事
2019年	第4回がん理学療法カンファレンス	準備委員長	
2019年	第6回がん理学療法カンファレンス	準備委員長	
2021年～	日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会	副理事長	
2021年	第4回日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会	学術大会	準備委員長



氏名 森山武

年齢 46

所属 市立函館病院

立候補の趣旨

2017年より前身であるがん理学療法研究会の運営部員として活動し、2021年より財務担当理事として務めさせていただきました。
今後も引き続き、がん・リンパ浮腫理学療法分野の発展に携わるべく立候補致します。
理学療法士の活動は医療介護分野から障害予防、学校保健や就労支援など地域住民に密接に関わり貢献することが求められています。
また、来年度の生涯学習システムの変更は子育て世代、地方在住者にとっては厳しい環境が予想されます。
がん・リンパ浮腫理学療法分野においても前記問題に加え、養成校でのがん分野・リンパ浮腫分野の教育など多くの課題があるかと思えます。
これらの問題を少しでも好転できるように尽力する所存です。
皆様のお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

役員歴

2003～2012年度	北海道理学療法士会	道南支部	学術教育部員
2013～2018年度	北海道理学療法士会	道南支部	学術教育部長
2017～2018年度	北海道理学療法士会	道南支部	副支部長・学術教育部長
2017～2020年度	日本理学療法士協会	がん理学療法部門	運営部員
2019～2020年度	北海道理学療法士会	道南支部	支部長
2012年度～	函館がんのリハビリテーション研修会		実行委員
2019年度～	南渡島地域リハビリテーション推進会議		理事・運営委員
2020年度～	日本理学療法士協会	がん理学療法部門	評価標準化WG（血液腫瘍）
2021年度～	北海道理学療法士会	理事	
2021年度～	日本理学療法学会連合	がん・リンパ浮腫理学療法研究会	理事（財務担当）



氏名 幸坂真宏

年齢 40

所属 富士宮市立病院

立候補の趣旨

日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会の理事に立候補いたしました幸坂真宏です。私は2012年から静岡県内でがん理学療法に関する活動を始め、現在では日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会でも活動をさせていただいております。私は今まで地域の中核病院に勤務し、さまざまな病期のがん患者さんに理学療法を実施してきました。その中でがん・リンパ浮腫に対する理学療法の発展のために必要なことは療法士の知識・技術の底上げだけでなく、仲間づくりや地域との連携だと感じております。これらをテーマに本研究会で活動していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

2012年度	静岡県理学療法士会	内部障害系専門部会	がんのリハビリテーション班
2017年度	日本理学療法士学会	がん理学療法部門	幹事
2018年度	第1回がん理学療法部門研究会	準備委員長	
2019年度	静岡県理学療法士会	内部障害系専門部会	がんの理学療法班 班長
2021年度	静岡県理学療法士会	内部障害系専門部会	部会長
2021年度	日本理学療法学会連合	日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会	理事
2021年度	第3回緩和理学療法カンファレンス	準備委員長	



氏名 高倉保幸

年齢 58

所属 埼玉医科大学

立候補の趣旨

理学療法士養成校を卒業後、癌研究会附属病院（現がん研有明病院）で15年間、埼玉医科大学総合医療センターで8年間の臨床経験を積んだ後、現在は埼玉医科大学保健医療学部でがん理学療法を含めた教育を主軸に、がんを中心とした研究と週に1度の臨床活動を行っています。

がん患者リハビリテーション料が診療報酬として制定される以前からがんの診療と研究活動を行ってきたという背景から、2010年には日本理学療法士協会の推薦を受けて厚労省後援がんリハビリテーション研修会合同委員に就任し、がんリハビリテーションの普及と発展に務めてきました。

2015年からは日本理学療法士協会 がん理学療法部門運営幹事（代表）を務め、2021年には日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会を発足させ理事長を務めています。また、癌研究会附属病院では全国の骨軟部腫瘍患者の登録と統計解析を責任者として担当してきた経験を活かし2005年から毎年統計手法・研究法の講習会を開催し、2020年にはリハビリテーションリサーチメソッド研究会を発足させ理事長を務めています。

今後は、当研究会理事として以下の活動を推進していきたいと考え立候補致します。

- ①学術的情報の交換と関係者の交流を深めるために学術集会や地方会をできるだけ多く開催する。
- ②新しい統計手法・研究手法を取り入れて研究方法論を発展させていく。
- ③評価法の標準化とともに多施設共同研究を推進する。
- ④研究サポート事業を中心として研究を志す会員を育成する。
- ⑤診療に関する制度の発展を目的にした情報をまとめて発信する。

役員歴

2015年～2021年 日本理学療法士協会 がん理学療法部門運営幹事（代表）
2016年～現在 日本理学療法士協会 分科学会・部門 総合連絡調整委員会委員
2021年～現在 日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会理事長



氏名 黒岩澄志

年齢 38

所属 昭和大学藤が丘病院

立候補の趣旨

私はこれまでがん理学療法部門部員、日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会評議員として、主にごんリハビリテーション研修会の講師や研究サポート事業に従事致しました。がんリハビリテーション研修会に関しては、開胸・開腹術の標準スライドを作成しました。現在左記研究会の集合学習がeラーニングで行われており、eラーニング上での開胸・開腹術のセッションの講師を務めております。全国各地で開催されているがんリハビリテーション研修会のうち、神奈川がんリハビリテーション研修会の実行委員長を務めており、がんリハビリテーション研修会の企画にも従事しております。この経験を、本研究会の発展に貢献したいと思い、立候補致しました。何卒宜しくお願い申し上げます。

役員歴

2019年10月～2021年7月：公益社団法人日本理学療法士協会 がん理学療法部門部員
2021年7月～：日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会評議員
がんリハビリテーション研修会講師 開胸・開腹術標準スライド作成
神奈川がんリハビリテーション研修会実行委員長



氏名 福島卓矢

年齢 34

所属 国立がん研究センター中央病院

立候補の趣旨

がん・リンパ浮腫の理学療法に関わる中で、がん患者の療養の質向上ならびに本研究会の発展に微力ながら貢献したいと強く感じ、この度立候補させていただきました。

そして、本研究会で進められている事業の中でも、研究推進、特に「臨床で活用できる本邦から発信された研究」が必要であると感じております。

わたくしはこれまで、総合病院、大学病院、がん専門病院に勤務し、様々ながんやリンパ浮腫に対する臨床に従事してまいりました。少しでも対象者に貢献できる理学療法を進めるべく、確立されたエビデンスを参考にしてきましたが、そのほとんどが国外で得られた知見であり、がん種や病期が偏っている事実を目の当たりにしました。そのため、本邦から生まれた臨床疑問に関しては、既存のエビデンスのみならず、本邦から発信された研究によって評価法や治療法を確立する必要があると感じました。

わたくし自身、臨床研究（リンパ浮腫、血液がん、周術期）もあわせて進めているところではありますが、個人や単施設での検討にとどまっている現状にあります。

本研究会を軸の一つとした多施設研究を推進することで、評価・治療法の確立・開発に繋がり、ひいてはがん患者の療養の質向上に大きく貢献できるものと考えております。その実現のために、臨床・研究を多施設で進めていける体制を皆さまと構築していきたいと考えております。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

2021年～ 日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会評議員



氏名 森拓也

年齢 31

所属 京都大学

立候補の趣旨

がんリハビリテーションは、世界的にも科学的根拠の不足した重要分野であり、研究会で活発な学術活動が必須の分野と感じています。先んじて医師主催のがん関連学会に数多く参加していましたが、理学療法の分野から独立した形の研究会は非常に興味深いものであります。私自身はがん悪液質由来の骨格筋萎縮に関する基礎研究に常日頃より従事し、当該分野の臨床との橋渡しの重要性を痛感しております。ただ近辺で小規模な環境では、科学的根拠の創出までに様々な制約が付きまとうため、研究会がそのアシストをできるような会になれば理学療法研究分野のがん研究は一層の飛躍をすると考えます。研究会の在り方にも議論の余地は十分にあり、若手研究者が自由に研究の着想を研究会に提案し、研究会自体が公募型研究の推進などに力を注げるような形になればと思い立候補しました。基礎と臨床が化学反応を起こす、または起こさせるような研究会の在り方を提案します。

役員歴

理学療法協会ガイドライン作成委員会 システマティックレビュー班員
がん・リンパ浮腫
第4回日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会 学術大会 査読委員



氏名 山本優一

年齢 42

所属 北福島医療センター

立候補の趣旨

がん理学療法部門の頃より当研究会の運営に携わってまいりました。
現在は国際担当理事としてWPTサブグループであるIPT-HOPEとの連携を担当しております。

IPT-HOPE内にはHIV/AIDS、Pediatrics、Lymphedema、Oncology、Palliative-careの
スペシャルインタレストグループが立ち上がり、
各国代表者による組織化が始まったところです。

このように当研究会に関連する国際活動は、
開設からまだ日が浅く組織の体制整備の真っ最中です。

引き続き職務を担当させていただき、
研究会の体制構築を進めてまいりたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

日本理学療法士学会がん理学療法部門 運営幹事
日本理学療法士学会がん・リンパ浮腫理学療法研究会 理事
日本リンパ浮腫学会 評議員